

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 半田市立有脇小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒475-0017

愛知県半田市有脇町6丁目37番地

E-mail arisyo-t@ariwaki-e.ed.jp

Website http://www.ariwaki-e.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 80名 女子 69名 合計 149名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「ふるさとを愛する心、日本を愛する心を育てる」をテーマに、将来、ふるさとでの体験、日本文化の体験を糧に、堂々と世界に飛び出していくことができる児童の育成を目標とした。

国際理解の第一歩として「ふるさと」と「日本」について理解を深める実践を行った。具体的には、他と「つながる」ことを目指し、①地域を大切に思う心を育てる「地域とつながる活動」と②日本人としての誇りを育てる「伝統文化でつながる活動」を行った。

### 1 地域を大切に思う心を育てる「地域とつながる活動」

① 全校児童が参加し、地域と連携して「ため池環境改善活動ーかいどり大作戦ー」を実施した。平成19年度から年に一回、地域のため池の4つを順に掃除し、今年度で11回目となる。9月に、3から6年生が水を抜いたため池に地下足袋をはいて入り、どろんこになって魚を捕まえ、外来種を駆除した。1・2年生は活動の見学と池の生物に関する観察を行った。

② 4月から11月まで、5年生が稲作体験活動を実施した。地域の農業従事者団体に指導してもらい、粃まきから田植え・かかし立て・稲刈り・脱穀ま

での活動を行った。1月に「稲作感謝の会」を開催し、収穫した米を使って児童が作ったおにぎりを振る舞い、地域の方へ感謝の気持ちを伝えた。

- ③ 地域舞踊会に指導を受け、運動会や地域の夏祭りで地元の盆踊りを披露した。夏祭りでは、区会の方々がお面や衣装を用意してくださり、児童は楽しく参加した。

## 2 日本人としての誇りを育てる「伝統文化でつながる活動」

- ① 全校児童が、行事や季節の変わり目に俳句づくりを行った。つくった俳句は短冊に清書して校内に掲示し、学校だよりも掲載した。卒業式には、「卒業俳句」と「送る俳句」を会場に飾った。
- ② 全校児童が気軽に茶道を体験できるように、大放課と昼放課に校長室を開放し、児童誰もが抹茶を味わえる場所にした。経験者の高学年が低学年に道具の使い方や簡単な作法を教え、和やかな雰囲気の中で活動が行われた。
- ③ 名古屋場所に合わせ、力士を招いて相撲体験を実施した。相撲の基本動作や練習方法を見せてもらったり、希望者が単独または複数で力士と対戦したりした。体験後には、各教室で児童と力士と一緒に給食を食べ、触れ合った。



## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<p>○理科および社会の教科書・副読本</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・小学理科6年 未来をひらく（教育出版）</li><li>・小学社会5年 （日本文教出版）</li><li>・小学3年・4年 副読本「はんだ市」（半田市教育委員会編）</li></ul> <p>○ウェブサイト</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・国営木曾三川公園HP</li></ul> <p>○パンフレット</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・農業とわたしたちの暮らし（一般財団法人JAバンクアグリ・エコサポート基金発行）</li></ul>
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとしての活動は、総合的な学習の時間及び関連する教科・領域のカリキュラムの中に位置付け、全ての学年で活動を実施している。

各学年では、学校全体としてのテーマをもとに、活動の方向性や活動のねらいを決め、総合的な学習の時間・生活科・社会科・理科を中心に道徳や学級活動も含め、教科横断的な指導計画をもとに指導内容を定めている。

また、企業や地域人材を活用した出前授業や校外学習を効果的に活用し、児童の興味・関心を高めたり、本物に触れる機会を増やししたりしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESD活動担当職員を中心に、全校体制の取組や各学年での取組をまとめ、全職員で指導内容や指導方法等を共有している。活動の様子は、画像及び文書ファイルで関係資料を保管し蓄積している。蓄積した資料は、各学年間で引き継ぎ、次年度有効活用するシステムになっている。

また、学校運営支援協議会を中心に、地域の協力者との打ち合わせを定期的に行い、地域と連携した活動を計画し、実施している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

職員は、年度末に「本年度の反省と来年度への提言」の中で、ESDの取組について評価している。また、ESDに関する各種行事直後に、反省と提言をまとめている。保護者は、年度末の学校評価のためのアンケート内で評価している。

地域と連携した教育活動の実践については、内外ともに評価が高く、地域とのよいつながりをもとにESDの取組が実践できている。今後は、児童が自分の考えや感じたことを発表・発信する機会をより充実させていく必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動成果については、県ユネスコスクール交流会で代表児童が実践を発表した。また、ユネスコスクール全国大会においても、参加教員が自校の理念と取組について意見発表をした。

また、地域に向けては、学校だよりや学校ホームページで各活動の様子と成果を情報発信している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

環境保護団体・農業従事者団体等、地域の関係団体と連携した取組が、本校のESD活動の中心となっている。これらの団体とは定期的に会議を開き、活動状況や要望等を聞いている。

また、ESDコンソーシアム愛知とのネットワークを形成し、研修会への教員派遣を支援していただいたり、講演会への講師派遣を依頼したりしている。本年度は、ESDコンソーシアム愛知の推薦を受け、第9回ユネスコスクール全国大会に参加することができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

平成29年度愛知県ユネスコスクール交流会に参加し、代表児童が、本校のESDの取組についてプレゼンテーション形式で発表した。また、他の参加校の発表を聞いたり、ポスターセッションを見学したりし、県内のユネスコスクールと交流した。

また、近隣のユネスコスクールとも情報交換している。本校の属する中学校区は、小学校2校・中学校1校の計3校全てがユネスコスクール加盟校である。そこで、各校のユネスコスクール担当者およびESD担当者が集まり、各校の取組の様子などをもとに、今後の活動について協議した。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項2-5に対応

本校では、ユネスコス쿨活動の一環として、日本文化理解を進めている。その中の「俳句作り」で昨年度、本年度と大きな成果を収めた。下記のコンクールで、出品作品が優秀な賞をいただき、本人の大きな励みとなった。

- ・ 笛吹市俳句会コンクール 児童作品秀作受賞
- ・ 芭蕉翁献詠俳句コンクール 児童作品特選受賞

以上のように、自国文化の理解を深めることは、他国の文化に対する理解を深めることにつながっていくと考える。今後は、日本文化理解活動をさまざまな国の文化を尊重する活動へと広げていきたい。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

<1年…生活科>

- ・ 四季の変化を踏まえた活動をし、暮らしとの関わりに気付く。
- ・ 地域のお年寄りや伝承遊びの楽しさを味わう。

<2年…生活科>

- ・ 地域を探検し、地域の自然や施設の様子を知るとともに、自分を支えてくれている周りの人々に感謝し地域を大切にしようとする。

<3年…社会・理科・総合的な学習の時間>

- ・ 地域の人々との交流を通して、自分たちの生活が地域の自然やそこで暮らす人々と深く関わっていることを知り、地域社会を大切にするとともに、地域社会の一員として活動しようとする。

<4年…社会・理科・総合的な学習の時間>

- ・ 地域の事業所や企業の協力を得て、ゴミ問題やエコ活動等の環境学習をするとともに、自ら計画を立てエコ活動に取り組み、進んで環境について考えようとする。

<5年…社会・理科・総合的な学習・道徳・学級活動>

- ・ 地域の農業従事者の協力を得て、稲作体験を通して地域の環境について考えるとともに、地域の人々への感謝の気持ちをもつ。

<6年…社会・理科・総合的な学習・道徳・学級活動>

- ・ 日本にある世界遺産に興味をもつとともに、日本文化体験活動を通して日本のすばらしさに気付く。
- ・ 環境問題、エネルギー問題、人権問題等、グローバルな課題に興味関心をもつ。

<全校活動>

- ・ ため池環境改善活動「かいどり大作戦」
- ・ 相撲体験
- ・ 俳句作り
- ・ 茶道体験
- ・ 地域の盆踊りの継承